

# 北海道科学大学公開講座

「定説を疑え！」

— “ピラミッドは、王墓？ テトラポッドでは” —

講師 浦田康滋 北海道科学大学客員教授

日 時 4月26日(木) 13:00~15:00

場 所 北海道科学大学 A棟 A106 講義室

受講対象 一般市民、学生・教職員

技術者に必要な力、「固定概念を払拭し、疑問を可視化し、課題を明確にし、科学的に考える」を養う事例として、「定説を疑え！」と題して、ピラミッドの建設目的の定説、“王墓”を疑い、エジプトのナイル川沿いにあるピラミッド群の建設目的について考察する本学公開講座を北海道科学大学客員教授浦田康滋により開催いたします。

**講演概要** “定説”とは、一般的に正しいと認められている説をいう。しかし、これは、疑いのないこと、決まっていることではない。定説として有名なのは、「江戸時代、大井川が防衛のために橋を架けなかった」、「タイタニック号氷山衝突で沈没した」がある。まず、その定説を疑う。さらに、最近、宇宙線透視でピラミッドに未知の大空間の存在が、吉村作治監修によるテレビ放送「エジプト大ピラミッド 隠された王墓と財宝」で注目となっているエジプトのピラミッドについて、その定説、「ピラミッドは王墓」に疑問を呈し、ピラミッドが「何故大きいのか？何故 100 基ほどあるのか？何故ナイル川西岸にあるのか？何故あの形なのか・・・」を科学的に考察し、ピラミッド群建設の目的を推察する。この科学的考察は、高津道昭氏の”ピラミッドはなぜつくられたか”をベースとし、その記載を含め科学的考察で疑ってみた。

ピラミッド群建設は、古代、ナイル川デルタに豊穡なる土地を造成するための最古の国家プロジェクト、現代風にピラミッドは、“テトラポッドであった”を推論する。

社会生活では、組織内の“定説”、すなわち“常識”がある。今、その常識を疑わないことにより、官民とも組織内で多数の不正、データ捏造が起り、危機を招いている。製造メーカーのデータ改ざん、完成車検査の裏作業、ゼネコンの談合、労働時間に関する実態調査データの取扱等がそれにあたる。いまこそ、定説、常識、さらに神話を科学的、論理的に疑う時期であろう。社会現場で、技術者として活躍する諸君、ぜひ、“(科学的に) 疑問を持つ”考え方を養ってほしい。

講師略歴 1971 室蘭工業大学土木工学科卒業、日本 IBM 勤務（8か月勤務後退社）  
1972 北海道開発コンサルタント（現 ㈱ドーコン）勤務  
1990 技術士（建設部門、都市および地方計画）  
2000 博士（工学）  
2008 ㈱ドーコン退社、北海道工業大学非常勤講師（担当科目：技術者の倫理）  
2015 北海道科学大学客員教授 現在に至る

申込方法 【定 員】 230人

【参加費】 無料

【申込期限】 平成30年4月24日(火)まで

(メールの場合：氏名・住所・電話番号・[4/26出席希望]とご記入下さい。)



【申込み方法】 お電話またはメールでお申し込みください。

北海道科学大学 地域連携・広報課

札幌市手稲区前田7条15丁目4-1

TEL : 011-676-8664 Email : chiiki@hus.ac.jp